

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	14-092	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol consumption, drinking patterns, and cognitive function in older Eastern European adults. 東ヨーロッパの高齢者における飲酒量および飲酒パターンと認知機能との関連		
執筆者		
Horvat P, Richards M, Kubinova R, Pajak A, Malyutina S, Shishkin S, Pikhart H, Peasey A, Marmot MG, Singh-Manoux A, Bobak M.		
掲載誌		
Neurology. 2015 Jan 20;84(3):287-95. doi: 10.1212/WNL.0000000000001164.		
キーワード		PMID
飲酒量、飲酒パターン、認知機能、高齢者、前向きコホート研究		4335999
要 旨		
目的：		
東ヨーロッパの高齢者において、飲酒の頻度、量、過飲および問題飲酒が、認知機能に及ぼす影響を検討した。		
方法：		
Health, Alcohol and Psychosocial Factors in Eastern Europe (HAPEE)前向きコホート研究では、ロシア、ポーランドおよびチェコにおける 47-78 歳の住民 14,575 名を対象として、2003-2005 年にベースライン調査、2006-2008 年に認知機能調査をおこなった。横断研究として 2006-2008 年に収集した飲酒情報と認知機能との関連を検討し、縦断研究として 2003-2005 年に収集したに収取した飲酒情報と 2006-2008 年の認知機能との関連を検討した。		
結果：		
横断研究では、非飲酒者において認知機能が低下しており、女性では中等量飲酒者の認知機能が少量飲酒者よりもよかった。多量飲酒、過飲および問題飲酒は、認知機能低下と明らかに関連していなかった。縦断研究では、横断研究で見られたような関連を認めなかった。追跡期間中に断酒した対象者では、持続飲酒者に比べて認知機能が低下していた。		
結論：		
多量飲酒や過飲は、認知機能低下と明らかに関連していなかった。断酒者においてその後の認知機能が低下していたことから、横断研究において非飲酒者の認知機能が低下していたのは、過去の飲酒者が含まれていることが一因であると推測された。		